

長野県が目指すべきインクルーシブな教育の方向性について

インクルーシブな教育の必要性

- ・障がいのある人や文化が違う人たちと一緒にやることが、あらためてこれからの子どもたちに重要。
- ・教室の中にいろいろな子がいることが、多様な価値観、多様な存在を受け止めることにつながる。
- ・当たり前、地域の中で「共に育つ」環境が必要。
- ・必要に応じて適切な支援が受けられる、連続性のある「多様な学びの場」が必要。

現状からの転換

- ・個別への支援に重点をおいて取り組んできたが、更に集団の中での育ちを考える必要があるのではないか。
- ・支援が難しいと特別支援学級(個別指導)へという流れがあるのではないか。
- ・障がいのある人もない人もすべての人が、多様性を受け止め、認め合える意識改革が必要。

保護者の願い

- ・地域で学ばせたいという考えと、専門的な支援を受けたいという考えを持っている。どちらも保障できる仕組みを考えたい。

今後、強化したい視点

共に学ぶ

学びの連続性・柔軟性

多様性への対応

個と集団

地域とつながる

専門性

小・中学校

- ・すべての教員の発達障がいに対する支援力と、多様な子どもたちが活躍できる集団づくりの力量を更に高める必要
- ・通級指導教室や特別支援学級をバランスよく整備するとともに、より通常の学級での学びを支える機能の強化
- ・学校全体がチームで支援していくための、マネジメント力、特別支援教育コーディネーターが活躍できる環境を強化
- ・児童生徒の育ちに応じて柔軟かつ適時適切に学びの場を見直す取組の推進

高等学校

- ・すべての教員の特別支援教育についての理解と支援力を更に高める必要
- ・中核となって特別支援教育を推進していく専門性の高い教員の育成
- ・多様な教育的ニーズに応じるための仕組み(通級による指導等)の整備
- ・中学校からの受入れや、卒業後を見据えた、関係機関(進路先、外部機関等)との連携強化

特別支援学校

- ・多様な教育的ニーズに対応するための、それぞれの障がい種別のより高い専門性の確保
- ・多様な教育的ニーズに応じた学びを支える環境整備(施設・設備の拡充・老朽化対策・教員の拡充)
- ・就労等、卒業後の多様な自立に向けた、高等部教育の充実
- ・地域資源(地域の人材、学びの場等)の有効活用
- ・より地域に近い場所で教育が受けられる仕組みの検討(分教室、副次的な学籍等)
- ・個別相談への対応から、学校全体の支援力向上を図るセンター的機能への転換

・インクルーシブな教育を推進する上での、特別支援学校のあり方検討。
 ☆H29.5専門家委員会、特別支援学校校長会等で検討中→次回(7月末予定)検討状況を提案

地域連携・就学相談

- ・早期のアセスメントの更なる拡充と支援を集団の中での育ちにつなげる取組の推進
- ・ライフステージ間(乳幼児→小中高→進路先)の情報の接続の強化
- ・医療、保健、福祉、労働、教育等の関係機関の協働による取組の更なる推進
- ・市町村教育支援委員会による、特別支援教育対象児童生徒の学びのフォローアップと、柔軟な学びの場の見直しの推進
- ・地域とのつながりの中で「共に育つ」機会をつくりながら、理解啓発を深めていく必要